

オルビス、SDGsを意識した「陸の豊かさを守る」CSR活動を 17年目となる今年も継続 環境保全活動の海外支援先であるフィジー共和国の子供たちと交流

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社（本社：東京都品川区、社長：小林琢磨）は、10月23日に環境保全活動の海外支援先であるフィジー共和国の子供たち及び関係者の表敬訪問を受けました。

オルビスは、2002年から公益財団法人オイスカ（本部：東京都杉並区、代表理事：中野悦子）の「子供の森」計画を通じて、フィジー共和国の子供たちの環境教育を兼ねた支援を継続しています。



10月23日に行われた交流会の様子



2008年 従業員のフィジー共和国渡航時の様子

今回来日したフィジー共和国関係者は、支援先の学校の生徒2名（男女各1名ずつ）、関係者2名（オイスカの現地駐在員、研修生）の計4名で、オルビスの取締役執行役員・福島からの歓迎の挨拶や、会社概要、環境保全活動への取り組みなどを説明しました。また、2002年、2008年と2度にわたってオルビスの従業員が同国に渡航し、子供たちとの交流や植林活動を行った様子をビデオ映像で紹介しました。

フィジー共和国関係者やオイスカからは、現在の同国の「子供の森」計画の進捗状況の説明を受け、同国で植林したマン グローブ等が激しい環境下にありながらも順調に生育が進んでいる様子をうかがい知ることができました。また、子供たちによるフィジー共和国の伝統舞踊の披露を受ける等、両国の交流を深めました。

オルビスの環境活動について

オルビスは1984年の創業当時より、様々な環境負荷低減の取り組みを行ってきました。2002年からはオイスカと協働で国内外の植林を中心とした環境保全活動を展開。海外では「子供の森」計画を通じたグローバルな支援とともに特定支援国としてフィジー共和国を選定。2002年、2008年と2度にわたり従業員が同国に渡航し、子供たちや地元関係者との交流、マン グローブ植林などを行っています。

◆フィジー「子供の森」計画での活動→<http://corp.orbis.co.jp/csreco/fiji/>

公益財団法人オイスカの「子供の森」計画について

「子供の森」計画(CFP: Children's Forest Program)の目的は、子供たち自身が学校の敷地や隣接地で苗木を植えて育てていく実践活動を通じて「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうというプログラムです。1991年にはじまったこの活動は、2017年3月末現在、36の国・地域の4,891の学校が参加するまでにその輪が広がっています。

◆オイスカ「子供の森」計画→<http://www.oisca.org/project/cfp/>